初代松江市長・福岡世徳文書（三）

竹永三男

今回は、本誌第七号（一九九一年三月）に引続き、福岡世徳文書の中、松江市長在任時代の「公務手帳」（現存全十冊）の第一冊を翻刻する。本冊収録記事の中心は、福岡世徳が「五州一県請願委員」の一員として行った、一八九一（明治二四）年の帝国議会請願及び政府要路への陳情活動である。そこには、地方都市（県都）の市長が行う、こうした活動の実際が、具体的に記されている。また、筆まめな福岡世徳は、東京往復の旅について、その行程から旅費に至るまで、これまた詳細に書き留めている。我々は、これによって、当時の旅の具体的内容を知ることができる（この点については、竹永「旅をする市長―初代松江市長・福岡世徳の旅―」井ヶ田良治外編『歴史の道・再発見』第5巻、フォーラムA、一九九四年、参照）。

本冊の翻刻は、一九九〇年に近現代史ゼミナールの学生が担当し、竹永が全体にわたって校閲した。参加者は以下の諸君である。

大阪理恵（Ⅱ）名原恭子（Ⅱ）西山一徳（Ⅱ）松本恵理子（Ⅱ）
勝部智明（Ⅰ）杉本貴弘（Ⅰ）古尾谷由規子（Ⅰ）前田和彦（Ⅰ）
〔（　）内は当時の学年〕

また、一九九三年度の「日本史講読Ⅲ」の授業でも、本史料をテキストの一冊に使用した。受講生は、以下の諸君である。

浅田正規（Ⅳ）山本賢司（Ⅲ）勝部直美（Ⅱ）曽根高みき（Ⅱ）
福島幸宏（Ⅱ）

〔凡例〕

翻刻に際しては、漢字・カタカナの原文を漢字・ひらがなに改め、句読点を適宜補った外、次の諸点について、記述上の変更を行った。

①文中の改行はとくに行わず、本誌の一行字数に従った。
②漢字は原則として、常用漢字に改めた。
③抹消が単なる誤記の場合は、訂正された文字のみを記した。また、抹消された部分が判読できる箇所は、そのまま翻刻し、抹消範囲をここで注記した。
④判読不明文字は、その字数に従い□で示した。
⑤原注は、（　）、校閲者注は［　］で記した。

〔翻刻〕

［福岡世徳「公務手帳」第一冊　一八九一年
タテ九・三㎝　ヨコ一三・八㎝　本文六八ページ］

一戸数　八六八八
一人口　三五八〇四
一公民　二六七〇
内
一級　一二六
二級　五一四
三級　二〇三〇
一田反別　四五七、六、二九
一畑反別　四八八、五、〇一
一宅地反別　二一五六、四、〇六
一池沼　二、〇、〇一
一山林　一五五、七、〇六
一原野　一、一、一〇
一雑種地　九三九、四、〇三
市有財産
一耕宅地　六、〇、一九
一山林　一、五、二九
一建物　二九九坪
国税
廿二年度　惣計二〇三〇六〇九四三
直接
一直接国税　四八三六、〇四四
内訳
一地租　三七三六、〇四四
一所得税　一一〇〇、八九九
間接
一間接国税　一五四七〇、八九九
内訳
一酒税　八五九四、四二八
一醤油　二三五四、六九五
一車　三〇五、二五〇
一売薬　二五三、八〇〇
一烟草　四六七、四〇〇
一度量衡　一六、六一九（ママ）
一銃猟　六〇、
一牛馬売買　一、〇〇〇
一諸印紙　一九六五、〇七四
但訴訟印紙を除く
地方税　惣計（〃）
廿二年度
一地方税　三五三一、六八〇
一四二七五、二七〇（〃〃〃〃〃〃〃）
内訳

一地租割　六五一、一〇〇
一戸数割　一四六五、〇三八
一営業雑種　一一四一五、四七〇

一貧民　五〇三、
廿三年度救助を受けしもの義損

私は商工業のことは至て不案内でありますから、敢て商工業のことに付て喙を容るゝことは出来ませぬが、しかし此度有志諸君が発起として大坂表に於て常物□扱所を設けられるゝこと［と脱か］なりまして、原文助君が為めに明日発足、彼地に趣かるゝこととなりましたことは、誠に我が松江市

餞別貰ひたる先
岡崎捨太郎
○桑原小四郎
谷口馬太郎
○小川善淵
○富谷□銭
○高橋□銭
○吉田□□□
「高橋、山本、藤岡、中村、渡部寛、佐藤梅、三島、長尾」
○本多千之助
帰□□□

野津岩、安来梅、松村リキ
大坂楳田停車場前、内国通運会社支店
楯縫郡国富村大字西代廿三番
久家定四郎

西
茶町　宮本徳助方

一大野より山口へ伝言のこと
御屋敷御道具を他人に見せること并刀剣取扱のこと
一中島より津田輔へ伝言のこと
一井上正一刑事訴訟講義高橋依頼
一桑原小四郎より佐藤喜八郎、北尾次郎へ伝言

十一円〇四銭六厘　大坂迄費用
三円〇八銭八厘　名古屋迄費用
二円三十五銭　名古屋より東京迄汽車賃
二円七十五銭　名古屋宿料
一円　禄太郎渡
一円五十銭　帽
一円十一銭　富士見軒食費
二円九十銭　不明
三十一日
四円二十五銭　二十六日より三十一日迄宿料
同日

六円　　禄太郎に渡す
二月六日
一円　　小数賀へ恵与
十日
二円　　禄太郎渡す
二十一日
三円　　禄太郎渡す
二十三日
一円　　禄太郎へ渡
二十八日夜
三円　　園山へ学校件旅費戻す
二円　　山口へ返済
三月七日
一　一円五十銭　禄太郎へ

大阪江戸堀上通一丁目　野津栄七方　山城

雪村
　三幅□
左右山水　紙本
中　布袋
□□竹
梅道人　弐幅
　蒔絵硯箱

梨地□
交趾　香爐
備前国友□
備前国則宗
長光
備州長船兼光

帰国の際贈物
一松平伯
一安井　山口、雨森、田中
一三村　缶詰
一杉元資　海苔
一津田輔三郎　洋服ボタン
一北尾　家内へ一封
一椎野より海苔
一林林より瓶詰
一高橋基一よりハンケツ

岡本へ嘱托物品
一洋服下着　上下　弐枚
一メリヤスシャツ　壱
一海苔箱入　壱　椎野より贈りし分
一魚肉瓶詰　壱　林より贈りし分
一巻紙　三包み

一ツボン　　壱

心覚

一山口亮より養子と実女との結婚手続きのこと

一右送籍のこと

一刑事訴訟法講義上巻既刻壱円廿五銭

下巻三月下旬出版壱円五十銭

一海苔一把、和田より石川に托せらる。髷形二つ和田より壱つは松井□太郎方へ

一雨森より神谷吉之進に伝言

一山口亮へ三円六十銭借用の内弐円返弁す。

一杉元資より桃家之事依頼

一山口より大野に伝言

天皇は戦を宣し和を講

一月廿日、午后三時松江発舩、同七時米子に着、仝所米五に投宿。

廿一日、午前六時過米子出発、根雨にて昼飯（是迄車）、午后一時四十分仝所駕にて出発、板井原迄。仝所より徒歩にて六時過新庄に着。仝所投宿。

廿二日、午前八時新庄発。小峠迄（美甘より二里東）車行、仝所より歩行。勝山にて昼飯。仝所より車行、福渡え午后六時過着。仝所投宿。

廿三日、午前七時福渡より車行、岡山にて昼飯。三□迄。仝所より汽車にて午后十一時大阪に着。

廿四日、大阪滞在。

廿五日、午前七時廿七分汽車にて大阪発、午后一時五十七分名古屋へ着。仝所投宿。

廿六日、午前五時四十五分名古屋汽車発、静岡にて車中昼飯。午后五時三十五分東京着。麹町区下二番町廿二番地、植田ハン方へ投宿。

廿七日、

廿八日、松田義雄を訪ふ。不在。（動物園を観る。）

廿九日」（松田義雄を訪ひ引掛麦店に至り帰る。）

三十日、請願事件打合の為め、午前九時より富士見町富士見軒に於て、千家尊福、岡崎運兵衛、佐々木善右衛門、高橋久次郎、田部長右衛門、佐藤喜八郎、園山勇、岡本金太郎、福岡世徳集会。請願書を提出すると同時に請願の理由書を印刷に付し、両院議員并各大臣に配賦することに決す。洋食を喫す。会費一円十一銭。

三十一日

貴族院請願。

二月一日

午前九時より園山、佐藤、岡本と板垣伯を訪ひ、引懸け神楽坂島金にて昼飯。松平伯訪問。其より厚生館にて田口卯吉の演説を聴き、黄昏帰宿。

二月二日

佐藤、岡本と同行、午前十時発宿。招魂社内を散歩、神田眼鏡より馬車に乗り、上野雁鍋にて昼飯。午后一時より上野公園内散歩、盆栽共進会を観、金杉村栄泉堂に於て志る古を食ひ、又上野より神田眼迄馬車、又九段坂下より人力車にて黄昏帰る。

二月三日
午前九時伯耆倉吉武信某来り、雲伯共同して五州一県を実行せんことを談して去る。十時出宿、岡本、大久保公哀悼の碑を観、転して愛宕の高塔に登り、芝公園に赴き徳川氏の廟を拝観し、終て勧工場観覧、松田楼（京橋区）昼飯を喫し、岡崎の邸を訪ひ、引懸け中條氏を訪、数十分談話して帰る。
二月四日
午前十時衆議院傍聴の為め、岡本と共に佐藤を誘ひたる処、偶中條政恒来りたるを似て外出する能はず、遂に佐藤にて昼飯を喫し、午后二時より衆議員（ママ）傍聴、同五時帰る。此日禄太郎来り、昼飯を喫し一泊、翌朝飯を喫して帰る。
二月五日
午前八時二十分北尾来る。仝三十分出宿、上野迄人力車行。仝所より佐藤、園山、岡本と共に十時三十分発の汽車にて王子に往く。雨森辰太郎先づ在り、竹中悍を誘ひ、扇屋に往き昼飯を喫し、竹中の案内にて抄紙場を巡覧、終て毛糸羅紗製造所を観る。午后六時十四分の汽車にて上野迄帰り、仝所より人力車にて八時帰宿。仝三十分禄太郎来り、仝夜帰る。
二月六日
午前九時過ぎ小数賀貞太郎来る。金壱園を恵与す。十時頃和田守菊次郎来る。暫時にして帰る。十一時過より岡本と共に四ッ谷三河屋肉店に至り、昼飯を喫し、午后一時に帰る。同二時雑賀啓次郎来る。同三時過園山勇来り、夜食を喫し、同八時過帰る。此夜吉田久胤来る。十一時過帰る。
二月七日
午前九時岡本、園山と神楽坂松平伯の邸に注き（人力車にて）、山口に面会し学校の件を談じ、仝邸にて昼飯を喫し、午后一時過仝邸を退き、途中より人力車に乗り、上野博物館観覧す。刀剣にては、

刀

備前国友成、来国行、備前三郎国宗、筑前左、村正、来国光、肥前国、近江大掾忠広二口、繁慶、馬徹等あり

短刀

信国、相州秋広、備前康光、備前盛光、備前康継等あり

上野より今川橋迄馬車に乗る。此間にて見認印并銀貨、銅貨取交ぜ三十銭余遺失す。
本通り旅籠町捨四番地にてフランネルを買ひ、日本橋通りに出て、銀座の牛肉店にて喫飯、引懸け片山（ママ）健吉を訪ふ。西山志澄、北川某、竹内綱在り。談話数刻にして帰る。途中より人力車に乗り、園山旅宿迄行き、十一時ぎ帰宿す。
二月八日
午前十一時過園山、岡本と四ッ谷三河屋肉店に至り、昼飯を喫す。食終るや門田正経来る。共に旅宿に帰る。其時午后一時過なり。談話中桑谷武一郎来る。同三時過き門田、桑谷去る。四時過菅田致敬来る。談話数刻にして去る。高橋久次郎、佐藤喜八郎、田部長右衛門又来る。暫時にして田部、佐藤去る。園山、高橋は夕飯を喫し、高橋は八時過去る。頃くして雨森辰太郎、禄太郎と共に来る。九時半請願書到達す。十一時雨森、園山は去り、禄太郎は泊す。
二月九日

午前九時佐藤の宿所に至り、請願書を綴り終て昼飯を喫し、貴族院へは来海孝蔵に願書を持たせ出たす。零時十分佐藤、岡本、園山と請願書を携へ衆議院に至り、岡崎の手を経て請願書を提出し、議事を傍聴し、午后三時半議院を退き、山王社に詣て、四時半帰宿。此夜ー、ー、ー、ー芳原に行く。ー、ー強て余を誘はんとす。余敢て辞し、往かす。

二月十日

昨日貴族院へ請願書を出したるは、書面の認め方等を問合せたる迄に付、本日午前十時佐藤喜八郎と両貴族院に出頭、千家、田部の両人に面会、願書上は書きの体裁を訪ひ、

島根鳥取両県併管の義請願

請願人　佐藤喜八郎
　　外何千何百名

と記載して両名に渡し、紹介を頼みて退く。同十一時過帰宿。禄太郎在り、国元より送りし金拾三円を請取り、禄太郎を携へ四ツ谷三河屋に至り、昼飯を喫し、零時三十分帰宿し、請願書扣の校合を為したり。午后第四時岡本帰宅、送金百円を請取る。四時半田部長右衛門来る。暫時にして去る。禄太郎も尋て去る。岡本活版所に至り、請願書印刷百五十部を六円に約して帰る。夜食後佐藤、園山を訪ひ、十時過き帰宿。

二月十一日

午前第九時園山に往く。桑谷と共政党将来の事を談し、十一時帰宿。岡本と共に出宅、芝の今朝と申す処にて昼飯の後、芝勧工場に至り、午后五時帰る。禄太郎、中村曳早太郎と共に先つ在り、鶴岡酢を取り夜食を喫せしむ。此分余負担夜に入り佐藤、園山、桑谷、武俣来る。十一時過き皆去る。

二月十二日

午前九時岡崎方を訪ひ、請願書受理の有無を聞き、其れより禄太郎の下宿を訪、宿主成合に面会、鶏卵五十代箱共九十二銭を贈り、十一時前禄太郎と共に人力車に乗り、渡部和光を訪ひ、暫時談話の末、三人浅草松田楼に於て喫飯八十銭余、午后一時吾妻橋頭より川蒸気船にて両国迄往き、回向院の相撲を覧、午后四時宅ママす。

十五日

午前十時白根専一を訪ふ。不在に付、請願書写を置き、去る。千家尊福を訪ひ暫時談話の後、尾崎三良を訪ふ。在宿なれども面会せず、請願を置き帰る。河野広中を訪ふ。暫時談話、請願書を出して帰る。麻布飯倉町にて昼飯を喫しいろは、芝公園勧工場に往き、末松謙澄を訪ふ。不在に付、請願書を置き、去る。福田久徳を訪ふ。不在。岡崎平内を訪ふ。不在。請願書を置く。三時過新橋より馬車にて浅草鴎遊館の懇親会に臨む。出席者　会費六十銭

中溝為雄　梅謙次郎
山口宗義　曽田亀三郎
本庄太一郎　高橋基一
井川洌　山田恒太郎
山口亮　岸清一
山本某　広田金吾
田部長右衛門　佐藤喜八郎

園山勇　岡本金太郎
桑谷武一郎　余
計十八名
高橋基一、山本某の演説あり。午后九時退散、徒歩にて十一時に帰る。

二月十六日
午前九時白根に往く。面会せず。園山と高橋久次郎を訪ひ、十二時前帰宅。直ちに三人出宅。四ツ谷にて昼飯。四谷本町散歩。志る古を喫し、午后三時帰る。夜に入り園山、岡本と共に加藤平四郎を訪ひ、小林橦雄を訪ふ不在。福田久恒を訪ひ、十時過帰る。

十七日
午前九時四人白根専一を訪ふ。不在。園山、岡本は新井章吾を訪ひ、佐藤と余は山田東次を訪ふ。面会、談話数刻にして帰宿。園山、岡本先つ帰り居る。新井在宿なりしも出勤時刻に付き面会せず。中庭にて岩崎萬次郎に会ひ、請願のことを談したる由。午前十一時手を分けて惣方を訪ふ。余は昼飯を喫し、零時三十分より車にて富田鉄之助、蜂須賀義韶、清岡公張、渡部又三郎、林友幸を訪ふ。皆不在。三浦安を訪。在宿、面会。事情を述て去る。某より鵜飼知久、佐久間を訪ひ、午后四時帰る。渡部又を訪ひし序に中溝為雄を訪ふ。不在。名刺を置く。

十八日
午前八時白根次官を訪ふ。面会せず。中村弥六を訪ふ。暫時談話、一旦帰宿。三人にて松平邸に往く。佐藤先つ在り、松平伯に謁す。仝邸にて昼飯を喫し、岡本と共に近藤書記官を訪ひ、引懸け箕浦勝人を訪ふ。不在。午后五時帰る。此日人力車雇切り。夜に入り片岡健吉を訪ふ。不在。

十九日
風邪気に付、終日在宿。午后二時門脇滋雄来訪。地価修正請願の為め上京、同意を得たしと述ふ。談話数刻にして去る。田辺長右衛門来る。請願書謄本を貴族院議員に配賦し了りしことを報して去る。禄太郎来る。来海孝造等と衆議院議員に配賦すへき請願書の謄本の部分して高橋久次郎に送る。

二十日
午前八時過き佐藤と共に白根内務次官を訪ひ面会す。請願の意を陳情し、去る。元田肇を訪ふ。面会せず。十時過帰宿。十二時岡本と四ツ谷三河屋に至り昼飯を喫し、一時に帰り、更に出宿。井川洌を訪ひ、暫時談話の後、松原新之助を訪ふ。不在。武俣欽明、山田恒太郎を訪ふ。皆不在。曽田幸三郎を訪ふ。暫時談話。松南宏雅、菊地侃二、林宥造、安部井磐根、芳野□経を訪ふ。皆不在。午后六時帰宿。禄太郎在り。同七時半竹内平太郎来る。暫くし去る。禄太郎も亦去る。此日人力車雇切り。

廿一日
午前八時過杉田定一を訪ふ。面会せず。有友正親、折田燕至、佐々田懋を訪ふ。皆面会す。遠藤速太を訪ふ。不在。十一時一旦帰宿。更に神田区連雀町、禄太郎宿所往、禄太郎、中村と共に肉店に至り、昼飯を喫し、中村とは分れ、禄太郎と浅草公園に遊び、凌雲閣に登る。十一階にて上層に達す。七層迄は電気にて釣上く。それより蝋細工を観、又禄太郎宿所迄往き、午后五時帰宿。山田恒太郎在り、

暫時談話し去る。

廿二日

午前八時竹内平太郎に至り、田中正造に至る。談話数刻、近藤準平、佐々友房を訪ふ。皆不在。遊就館を観る。午前十一時過帰り、佐藤に往く。村田寂順師在り、暫時談話して帰る。午后二時園山来る。尋で井川洌、曽田幸三郎来る。三時井川、曽田去る。午后五時武俣欽明来る。同六時岡本と共に銀座散歩、九時帰る。園山、武俣、桑谷、禄太郎在り、園山、武俣、桑谷は十一時去る。禄太郎は泊す。

廿三日

午前八時半出宅。□田□造を訪ふ。渡邊又三郎を訪ふ。又面会せす。大東義徹を訪ふ。不在。九時半帰る。十一時半岡本と共に天金にて昼飯を喫し、三重、徳島両県地価修正事務所を訪ひ、辻某に面会し、午后二時帰る。二時半園山来る。四時廣田畦平来る。暫時にして去る。五時園山と共に松原新之助の案内に依り、日本橋区亀島町偕楽園に至り、支那料理の饗応に預る。山崎幹も共に饗に預る。十時園山と共に帰る。

廿四日

午前九時松平伯邸に往き、伯に随ひ砲兵工廠一見、午后一時富士軒に軒(ママ)に於て伯より洋食の饗応を受く。午后三時帰る。曽野間来る。夜食後園山宿に往き、十一時帰る。

廿五日

午前九時過より三條公葬儀を観る。神田松本牛肉店にて昼飯を喫し、浅草より芳原郭外上野を経て、午后第五時過帰宿。

廿六日

午前八時半より岡本と共に植木枝盛、田邊三五郎、村上角五郎を訪ふ。皆面会せす。澤田弸を訪ふ。不在。逓信省に於て同人に面会。十一時過帰り、園山等と宝亭に於て洋食を喫し、午后四時松平家に往き、引懸け三村只右衛門方に往き、夜食の饗応を受け、同八時半帰り、佐藤に往き、十一時過き帰る。

廿七日

午后一時より四人にて市村座芝居を観、同六時帰宅。

廿八日

午前十時園山に行き、十一時より単独にて日本橋、京橋辺買物を為し、京橋区肉店にて昼飯。午后二時園山に行き、暫時談話、四時帰る。

三月一日

午前八時出発。松南宏雅を訪ふ。談話数刻、仝人の話に、復轄論に尽力する積りなり。会見県設置論は業々懸ることにて無しと考ふ。復轄の請願書は二月廿三日、岡崎、高橋、佐々木に紹介人となり貰ひ、呈出す。石見転管論は廿四日に佐々田に頼まれ、自分も紹介人となりて請願書を出す。自分が弥生倶楽部に入会せしも、政党と結託して復轄の事を貫かんがためなりと。

引懸け菊地、芳野を訪ふ。皆不在。明法堂へ行き、商法正義の紙代金六十八銭を払い、近藤修之助を訪ひ、帰る。十一時過なり。戸田忠幸在り、暫時にして帰る。午后二時半より高橋基一を訪ふ。談数刻、菅野致敬を訪ふ。不在、帰る。午后五時岸清一来る。酒飯を出す。禄太郎来る。禄太郎は九時半、岸は十時に帰る。

二日

午前九時高橋久次郎を訪ふ。暫時談話、千家へ暇乞に行く。不在。松平家に往く。伯に面謁、日本道徳論、弘道会大意各壱部を修道館に贈らる。余にも贈らる。同所にて昼飯、引掛け麹町区役所に出て区長に面会を求む。用事ありとて出納掛り書記松島澄人面会す。暫時談話。二時帰宅す。高橋基一、谷清瀬来る。四時過より禄太郎来る。六時知久へ暇乞に往く。北尾、岡崎へも往く。八時帰り、園山に往く。此夜雨森辰太郎来る。松平家より贈物を受く。

三日

午前八時半渡部又三郎を訪ふ。談話数刻にして去る。雷新聞社に往き、林々次郎に面会、十一時前帰る。高橋基一在り。十二時園山来る。共に平川町いろはに至り、昼飯を喫して帰る。午后五時佐藤、岡本、園山と四人岡崎に至る。佐々木、高橋久次郎先つ在り。仝所にて夜饗を喫し、引懸け佐藤に往き、十時帰る。

四日

午前九時田部に往き、多額納税者を説くことを頼み、佐藤に往く。昼飯は鰻飯を取寄せ食ふ。午后二時岡崎運兵衛来り、石見転管□□取消のことを報す。午后二時半帰る。同三時過斬髪店に至り、斬髪す。夜食後園山に往き、諸計算を遂け、十二時帰る。

五日

午前河島□、末松謙澄を訪ふ。面会せず。内務大臣に請願□写を呈す。十時過帰る。午后一時佐藤、園山来る。六時渡部和光来る。六時半より沢田弸を訪ふ。暫時談話。八時帰り、喫飯。直に園山に至り、十一時帰る。園山にては岡本、渡部和光等と園山子息のことに付き相談。

六日

午前八時半千家に至り、請願事件の模様を問ふ。九時過帰る。園山に至る。岡本も来る。十二時前帰宅。裁縫師来り、身体の寸法を取り帰る。鮨と鍋とを取り寄せ食ふ。午后在宿。夜食後園山に往き、九時過帰る。

七日

椎野正次郎、林林二郎、井川洌来る。井川洌は昼飯を喫し帰る。午后一時北尾に診察を乞ひ、茶を服す。午后三時より禄太郎来る。夜に入り山口、雨森、岸、林、高橋、引野、園山来り、十一時帰る。

三月八日

見送り渡部、椎野、中村、成相。午前六時発車、午后五時三十分名古屋禄太郎に着。秋琴楼に投宿す。

九日

午前五時四十五分名古屋発車、十一時五分京都に着。麹屋町通姉ケ小路上る柊屋事西村庄右衛門方に投宿。午后二時より岡本と同車にて栗田の仙洞御所より智恩院、祇園、清水寺、大仏、両本願寺を巡観、五時帰宿す。

十日

午前十一時過停車場に至る。発車に後る。近所の旅店に休憩し、昼飯を喫し、十二時四十八分発車、二時十八分大阪着。西区土佐壕裏町、福岡家に投宿す。

十一日

午前七時大阪発車。神戸にて乗替、八時廿五分発車、十一時四十分梨原へ着。片上迄腕車、二時半着。仝所にて昼飯。午后六時半岡山

へ着。仝所三好野へ投宿。

十二日

午前七時半岡山発。十一時半福渡に着。昼飯。午后六時半勝山着。岸屋に投宿。

十三日　午前八時半勝山を発し歩行し、十一時半美甘に着。仝所昼飯。午后六時根雨に着。茶屋にて投宿。

十四日　午前八時根雨発。十二時半米子に着。同所迄出迎あり。四時仝所より乗船。午后五時岡崎□□□上陸。六時過帰宅。

一拾五銭　手套
一七銭五厘　襟
一拾四銭　襟飾り
一拾七銭　袖口

九十□銭　常松ヨリ合
壱円　役所小使へ
壱円九十銭　馬□酒代

麹町区富士見町二丁目卅八番地　岡崎運兵衛
四十五銭　電話料
麹町五丁目五番地　ヤナガハヘイスケ方　佐藤喜八郎

《第一冊完》